

平成 30 年度 (前期) みなとかまいし地区会議
開 催 結 果 (要旨)

1. 開催日時 平成 30 年 6 月 25 日 (月曜日) 19 : 30~20 : 45
2. 会 場 釜石市青葉ビル 研修室 1・2
3. 参加者 62 名 (内訳 : 構成員ほか 36 名、市側説明者 18 名、事務局 8 名)

4. 経過と結果

① 開 会

柴田副議長により開会宣言

② 説明事項

以下の各項目について、担当部署から資料に基づき説明

- (1) 平成 29 年度の公共事業の実施結果及び平成 30 年度の公共事業の実施計画【財政課】
- (2) 復興事業の進捗状況について【復興推進本部】
- (3) ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催について【ラグビーワールドカップ 2019 推進本部】
- (4) 路線バスの幹線支線化及び通常運賃化について【市民生活部・生活安全課】
- (5) 防災行政無線の戸別受信機の貸与について【防災危機管理課】
- (6) 平成 29 年度の公共事業の実施結果及び平成 30 年度の公共事業の実施計画【消防課】

③ 質疑応答

(大渡町内会 : 萩野会長)

- ・大渡町の中に大町という名称のバス停がある。岩手県交通釜石営業所からは、バス停を直すのに 2 千万円かかると言われた。イオンの前のバス停を岩手中央と直した時になぜ一緒に直さなかったのか。

(大久保市民生活部長)

- ・大渡橋を渡って釜石に入ってくるとまず大渡バス停がある。大町バス停が田丸付近にあればいいのだが、なかなか設置できず、ジュエルの前にある。前からバス停名を薬師公園入口にした方がいいのではないかという話があり、その話は岩手県交通に伝えているが直っていないという状況。釜石中央を直したのは、元々のバス停名が岩手銀行前であり、今は移転したため。商店の前だとバス停を設置するのが難しいということで、大町バス停を大渡に設置している。バス停名の変更についても岩手県交通と話し合いたいと思う。

(浜町 3 丁目第 2 町内会 : 荒木会長)

- ・この時期になってまた岩手缶詰の悪臭問題が出てきた。環境課からフィルターを交換したと連絡をいただいたが、全然進歩がない。毎年出てくる問題なので、市の方でどのような取り組みをしていくのか。できれば頻繁に巡回し、岩手缶詰に強く注意してもらいたい。
- ・新浜町へ向かう道路が 1 本しかない。今建設中の浜町復興住宅付近まではいくつか照明がある。そこを過ぎると誘導灯があるだけで、夜になると怖い。浜町に入っていくのもスロープのきつい道路 1 本

になってしまい、歩道もなく、お年寄りには非常に危険。何か起きる前に対策を考えてほしい。

- ・浜町はお年寄りの多い地域なので、コミュニティバスのような移動手段が欲しい。例えば、スクールバスを利用して、お年寄りの移動手段に活用できないか。
- ・アスレチック公園の山側の登り口から入ると、草はきれいに刈られているが、樹木がかなり張り出してきているので、伐採してほしい。

(大久保市民生活部長)

- ・岩手缶詰の悪臭問題について、活性炭フィルターを5月30日に交換して、6月に入ってから悪臭は少し落ち着いていると聞いていた。油水分離装置で、排水を循環させて浄化させているので、そこが悪臭の原因になっている。それを外に出さないようにして塩素で消毒し、活性炭フィルターを通して外に出すようにしている。さらに消臭装置をつけ、排気のじゃばらを長くすることで、以前に比べ改善を進めているところ。また岩手缶詰と話し合いを進めていきたい。

(東前町内会：佐藤会長)

- ・魚の残菜をトラックで回収する時に、カラスが群がってきている。回収する時は残菜にシートをかけてカラスに見えないようにした方がいい。

(大久保市民生活部長)

- ・その点に関しても、岩手缶詰と対応をしていきたい。

(竹澤復興管理監)

- ・復興工事に関して、浜町・東前付近が暗く、歩道がない状況であるので、現地を確認し、安全対策を構築したい。
- ・アスレチック公園に関しても現地を確認し、草・樹木の剪定も含めて対応させていただきたいと思う。

(和賀生活安全課長)

- ・スクールバスの混乗化に関して、なかなか厳しい状況にある。市内でも坂が急なところがあるので、そこでタクシーを活用する方法やデマンドバスといった新たな方策、公共交通と福祉を絡めたものを考えているので、検討していきたい。

(浜町3丁目第2町内会：荒木会長)

- ・浜町に入る道路の勾配がきついと話したが、祭りのときにあの勾配だと厳しいと思う。良くなるように検討してほしい。

(竹澤復興管理監)

- ・そのことも含めて調整していきたいと思う。

(東地区民生委員：柏木)

- ・浜町の藤沢印刷の裏の墓地の下の石垣が少し崩れかかっている。生えている草を引っ張ると、石垣ごと崩れそうになる。

(菊池建設部長)

- ・場所・状況を詳しく確認させていただきたい。

(菊池顧問)

- ・釜石まちづくり株式会社について、市役所だけで設立し、市役所の関係者だけで代表取締役及び重役が定まったのか。それとも設立時点で民間から株式の公募をしたのか。また、釜石まちづくり株式会社はどのくらいの資本金で設立したのか。代表取締役の株式はどのくらいか。

(平松産業振興部長)

- ・釜石まちづくり株式会社は、株主の公募はしていない。今現在の株主は、4 銀行と、商工会議所、釜石ガス、釜石市。公募しなかった経過は、皆さまの代表ということで釜石市、事業内容を関知していただく時に金融機関の協力をいただいたため現在の状況になっている。資本金は今現在 5,640 万円、代表取締役は今現在では株を持っていない。数字に関しては以上になる。

(山崎副市長)

- ・サンロックについて市民の方々には大変ご迷惑をおかけした。当初のもくろみがあって、それが上手くいかなかった。その責任所在については、市で行ってきた事業であるので、市で清算した。市民の皆様にお詫びを申し上げたのは事実。負債は今後どのようになるのかというと、取締役等の役に就けばそれなりの個人責任が問われる。釜石まちづくり株式会社を今後どのように運営していくのかを含めて、今の釜石市に必要だということで設立したので、ご理解をいただきながら、まずは黒字化、事業の効率化に向けて努力をすると今は考えている。今は取締役になっているが、会社を経営するにあたっての色々な意見を申し上げ、フォローしながら、今後とも皆様にご迷惑をかけないように進んでいきたいというのが今の状況。

(東前町内会：佐藤会長)

- ・市の方にお礼を申し上げたい。東前町内会でも念願の集会所が建設されることになった。集会所は地域のコミュニティと皆さんの寄り合いのために使いたいと思う。本当にありがとうございました。

(高橋常議員)

- ・岩手缶詰は誘致した企業なので、企業の責任もあるが、行政の責任も必至。岩手缶詰はフル操業しているはず。冷凍品を解凍しながら作っているため、臭いが出るのは必至。このことを気づかずに誘致した行政側にもそれなりの責任がある。いずれ解明していただきたい。
- ・復興財源が打ち切られた時の今後の釜石の状況をどのように考えているのか。

(山崎副市長)

- ・岩手缶詰の誘致関係について、環境保全協定含めて市と企業が一緒になって取り組みましょうということでやっていたので、改めて担当課含めて改善に向けて努力していきたいと思う。誘致した行政責任に関して、一緒になってやっていくということと、経済的なことでの活性化・雇用の確保等、両面性のあることなので、そこを含めながら取り組んでいく必要があると感じている。
- ・これからの財政状況の中で、市民の方々に対してどのように対応・施設整備をしていくのかということに関して、これは被災した地域だけの問題ではなく、釜石が被災していなくても、色々なところで足りない施設はある。造るべき施設と、統一すべき施設、選択と集中の視点を持ちながら効果的な施設整備をしていく必要があると思う。今のところは、復興交付金といった国・県の制度を使いながら進めているが、今度は計画的な形の中で、復興財源以外の市の制度や国の制度を使いながら、整備をして市民の方々のサービスの保持に努めていくというのが基本だと思う。そういうことを考えながら財政を運営していきたいと思う。施設管理計画等これからの流れとしては、全体の施設運営・維持に

どのくらいの費用がかかるか試算をしている。使っていない施設に関しても試算しているので、今後はそれらを計画的にどのように廃止・有効活用するかという新しい考え方の中で進めていくことが大事ではないかと思う。

④ 市長総括

- ・今日のご意見いただきましてありがとうございました。
- ・東部地区は何とか形が見えてきたとはいうものの、まだまだ課題が山積していることを改めて認識させていただいた。お墓の石垣、岩手缶詰の件について、よく検討して地域の皆さんが安心して生活できるように努力をしたいと思う。
- ・町内会とは引き続き、色々な面でやり取りをしながら進めていきたい。
- ・釜石まちづくり株式会社は震災後設立した。現在は順調に進んでいる。この会社は民間の方の活力を活用しようという主旨で作られたものであるので、その主旨に沿って民間の方に社長に就任していただいた。
- ・釜石の観光に力を入れようということで、DMC という会社を設立した。こちらの会社もある程度順調に当初の目的通り動き出したら、民間の方の活力を活用させていただきたい。
- ・山間部や漁村集落での後継者不足や高齢化が進んでいるが、そういう地域になかなかバスを通せないのが大きな課題。それを踏まえて、社会の課題においては世話焼き人がいるが、地域の課題は地域の方々でできるだけ取り組んでいこうと進めている。
- ・今年度はさらに世話焼き人から、支え合い推進員という新たな制度も作り、民生委員の方を助けながら、同時に地域の方々も一緒になって取り組んでいこうという仕組みも作っていきたい。そのために協力できる方々に参加していただければと思っているところ。
- ・引き続き力を入れながら、地域の方々がどこに住んでいても安心して暮らせるまちづくりに邁進していきたいと思う。そのためにも地域会議の役目は非常に大きく、地域会議の役員の皆さま、地域の方々の皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。